

# 岡谷小学校統合計画

－ 岡谷小学校の今後のあり方に関する方針 －

平成26年7月

岡谷市・岡谷市教育委員会

## 目 次

1. 計画の策定にあたって .....	2
2. 計画の理念 .....	2
3. 骨格となる基本方針 .....	2
4. 基本方針に対する考え方 .....	3
5. 岡谷小学校統合の推進体制 .....	6
6. 統合に向けたスケジュールのイメージ（案） .....	7
7. 将来の教育環境を見据えた考え方 .....	7
8. 計画策定に至るまでの諸経過等（参考資料） .....	8
(1) 岡谷小学校のあゆみ .....	8
(2) 耐震改修への対応経過と学校敷地の現状 .....	8
(3) 地質調査結果の概要 .....	9
(4) 児童の安全確保のための市及び市教育委員会の判断 .....	10
(5) 岡谷小学校のあり方検討委員会による検討 .....	10
(6) 岡谷小学校のあり方に関する提言書 .....	10
9. 岡谷小学校敷地の安全対策に関する基本的な方針 .....	12
10. 岡谷小学校のあり方に関する提言書（本文） .....	13

### おかや子育て憲章

わたくしたち岡谷市民は、未来を担う子どもたちの健全な成長を願い、子ども心の自立を支えるため、市民総参加による子育てのまちづくりを進めます。

わたくしたちは、

- 明るく元気で健やかな子どもに育てます。
- 命を大切にし、感謝の心と思いやりのある子どもに育てます。
- 自ら求め、粘り強くやり抜く子どもに育てます。
- 行動に責任を持ち、ひとり立ちのできる子どもに育てます。
- 力を合わせて人のために尽くし、郷土を愛する子どもに育てます。

## 1. 計画の策定にあたって

開校以来140年余の歴史の中で、地域に愛され、支えていただいた岡谷小学校であります。地盤の安全性に課題がある中で、児童の安全な教育環境を確保するため、現在地での学校の歴史を閉じさせていただくことになりました。

地域にとって大切な学校をなくさなければならないことの心の痛みを、市及び市教育委員会として真摯に受け止めているところであります。

本計画の策定にあたり、市及び市教育委員会は、未来を担う子どもたちが健やかに育ち、夢と希望を持って学校で過ごせるよう、より良い教育環境を作り上げていくことが大切と改めて決意したところであり、大切なお子様を預かる立場として、「おかや子育て憲章」に掲げた理念を実践するとともに、子どもたちの学力向上と自立支援に力を注ぎ、最善を尽くしてまいります。

## 2. 計画の理念

岡谷市及び岡谷市教育委員会は、岡谷小学校の児童の安全、安心な教育環境の確保に向けて、柱となる「**理念**」を岡谷小学校と関係する相手校との「**統合**」とし、それぞれの学校の良さや伝統などを礎にしながら、それぞれに融合していくことで、子どもたちが夢と希望を持って通うことのできる、楽しい、**魅力ある新たな学校づくり**を進めてまいります。

## 3. 骨格となる基本方針

岡谷小学校統合計画の骨格となる4つの基本方針を示し、対応を進めてまいります。

- ① 児童の安全確保のため、岡谷小学校は平成28年4月に統合します。
- ② 統合対象校を田中小学校、神明小学校とし、岡谷小学校と融合した魅力ある新たな学校づくりを進めます。
- ③ 平成28年4月から岡谷小学校の児童は、それぞれの統合対象校へ通学することになります。
- ④ 岡谷小学校の学籍、財産などを継承する拠点校を田中小学校とします。

#### 4. 基本方針に対する考え方

##### ① 児童の安全確保のため、岡谷小学校は平成28年4月に統合します。

###### <考え方>

東日本大震災を経験した国として、平成27年度までに学校施設の耐震化を完了させることは、国の方針により、全国の市町村が取り組んでいる喫緊の課題であり、市内の学校施設の耐震化100%をめざす、岡谷市としての目標期限であります。

現在の校地環境では、校舎の耐震改修ができず、また、敷地を将来に亘って建設用地としても活用できないことから、児童の安全な教育環境の確保を第一に考え、耐震化完了の期限としている平成27年度末をもって、岡谷小学校は学校施設としての利用を取り止め、平成28年4月に統合することといたします。

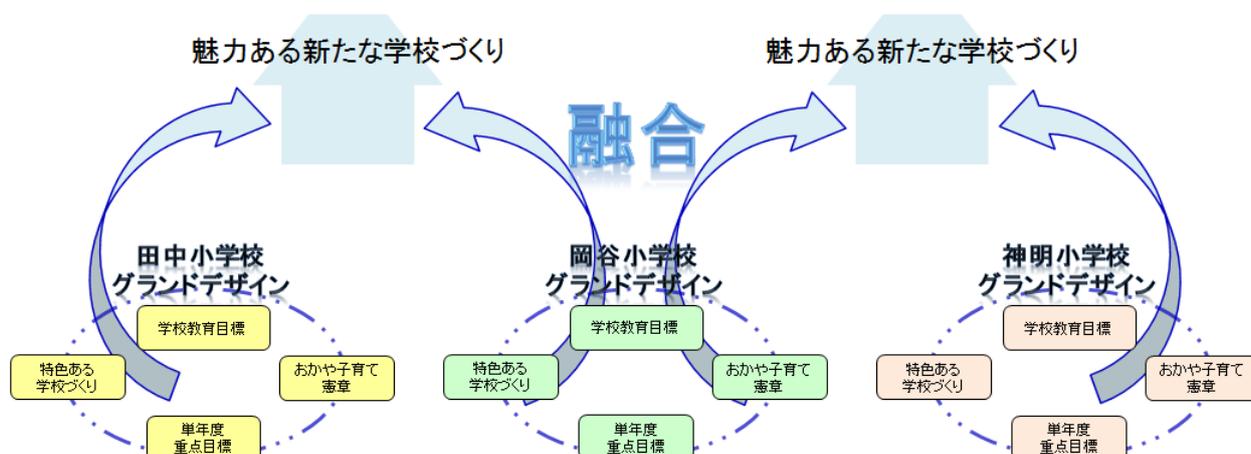
このことは、市及び市教育委員会としましても、やむを得ない苦渋の選択であり、児童の安全、安心のための取り組みであることをご理解いただきたいと思います。

##### ② 統合対象校を田中小学校、神明小学校とし、岡谷小学校と融合した、魅力ある新たな学校づくりを進めます。

###### <考え方>

田中小学校、神明小学校を岡谷小学校と統合する基本的な統合対象校とします。

それぞれの統合対象校では、岡谷小学校と融合した新たな学校理念（グランドデザイン）を構築するほか、特色ある学校づくりなどを継承、発展させながら、それぞれの学校の優れた面を更に伸ばすことのできる、楽しい、魅力ある新たな学校づくりを推進してまいります。また、統合に込めた想いを全小中学校が共有し、市を挙げた魅力ある学校づくりをめざしてまいります。



### ③ 平成28年4月から岡谷小学校の児童は、それぞれの統合対象校へ通学することになります。

#### <考え方>

平成28年4月以降、現在の校舎を使い続けることは、大切なお子様を預かる学校設置者の責任においてできないことから、岡谷小学校に通う児童は、それぞれの統合対象校に通学していただくこととなります。

この対応は、岡谷小学校から児童が新しい学校へと移るだけでなく、学校の統合という理念に基づき、児童も先生も学校の中身も関係する学校がひとつになって、楽しい、魅力ある新たな学校づくりを進める取り組みにしてまいります。

#### <児童へのケア>

統合を進める上で、新たな環境にスムーズに受け入れるよう、準備の段階から児童や先生の交流を進め、児童へのケアに対しては、教職員の配置にも留意しながら、最大限の配慮を行ってまいります。

また、通学路の変更にあたっては、児童が安全に通学できるよう、岡谷小学校のあり方検討委員会において検討された内容などを尊重しながら、通学路の安全性の確保や低学年児童の通学距離を踏まえた支援等の検討を進めてまいります。

＜通学区域の指定変更に向けた基本的な考え方＞

通学区域の変更につきましては、地域性等を十分に考慮した上で、行政区単位による指定の変更を基本に考えております。

この考え方を基本に置きながら、最終的な通学区域の指定につきましては、保護者や地域関係者の意向を確認した上で、9月中を目途に方針を固めてまいります。

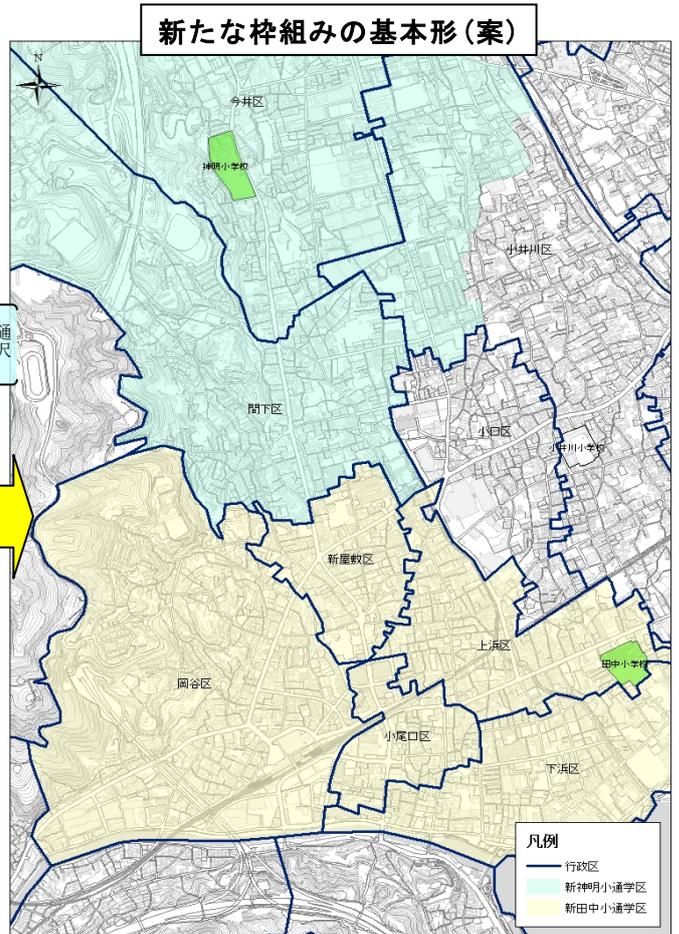
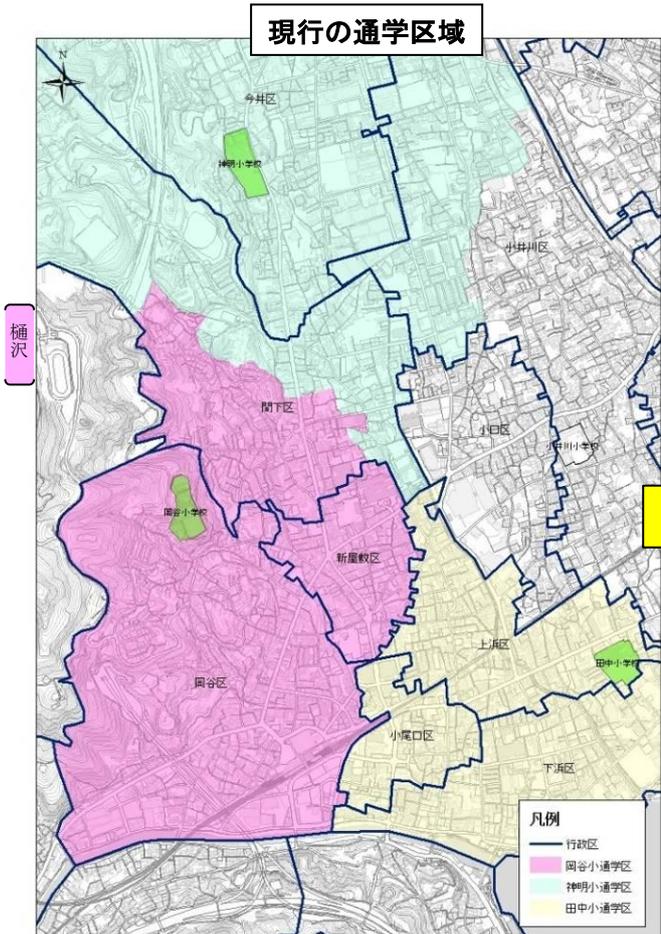
なお、通学区域の変更後における学区外への就学につきましては、個別の事情を踏まえた上で、柔軟に対応してまいります。

＜現行の通学区域＞

学校名	通学区域
岡谷小学校	間下区5, 7～15町内、岡谷区、新屋敷区、樋沢
田中小学校	下浜区、小尾口区、上浜区
神明小学校	今井区1, 4～12町内、今井区3町内 国道下、間下区1～4, 6町内、 小井川区12, 13, 15, 16, 17国道下、 18, 22, 23, 24, 26, 27, 28町内

＜新たな枠組みの基本形となる通学区域（案）＞

学校名	通学区域
田中小学校	下浜区、小尾口区、上浜区、 <b>新屋敷区、岡谷区</b>
神明小学校	今井区1, 4～12町内、今井区3町内 国道下、小井川区12, 13, 15, 16, 17国道下、18, 22, 23, 24, 26, 27, 28町内、 <b>間下区、樋沢</b>



### <各小学校の児童数の想定>

通学区域の新たな枠組みの基本形をもとに、実施初年度となる平成28年度の児童数及び学級数を推計し、これを新しい通学先に移った後の各学校規模の想定とします。

### <通学区域の新たな枠組みを前提とした各小学校の児童数及び学級数の推計>

	H26.5月現在		H28年度推計	
	児童数(人)	学級数	児童数(人)	学級数
岡谷小	259	11	0	0
間下区	71	—	0	—
岡谷区	136	—	0	—
新屋敷区	52	—	0	—
神明小	362	14	440	16
田中小	240	10	446	18

※学級数に特別支援学級は含みません。

### <中学校の通学区域に関する考え方>

小学校の通学区域の見直しに伴う、中学校区への影響を考慮して、中学校の通学区域についても見直しを検討してまいります。

## ④ 岡谷小学校の学籍、財産などを継承する拠点校は田中小学校とします。

### <方針の考え方>

岡谷小学校の学籍のほか、財産などを継承する統合拠点校を田中小学校とします。

田中小学校では、平成28年4月以降の児童数、学校規模に合わせて、教室数の充実を図る必要があるため、統合の実施に向けて、教室などの施設整備を進めてまいります。

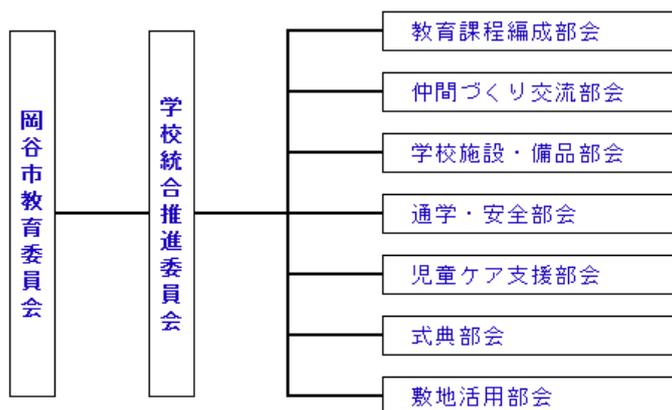
また、統合対象校（神明小学校）の充実を図るほか、関係する中学校についても、計画の実施に伴う状況の変化に応じた施設整備等を行ってまいります。

## 5. 岡谷小学校統合の推進体制

統合を円滑かつ確実に実施していくため、教育委員会に（仮称）学校統合推進委員会を設置します。委員会では、学校長、教職員、保護者、地域の代表者等を交えて、計画の実施に向けた諸課題の検討・協議を進めてまいります。

なお、部会については必要に応じて、児童の参加も検討します。

### <（仮称）学校統合推進委員会組織図(案)>



### < (仮称) 学校統合推進委員会による検討等 >

委員会では、新しい学校生活をはじめめる児童がスムーズに溶け込めるよう、また、魅力ある新たな学校づくりをめざして、関係する皆さんと一緒に考えていただくため、分野別に部会を設け、より良い学校環境づくり、スムーズな移行に向けた準備を進めてまいります。

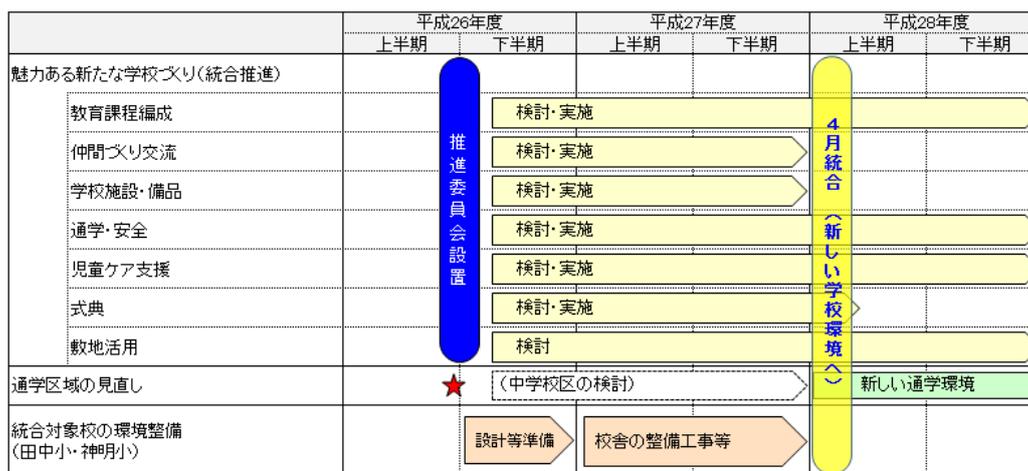
また、委員会の中で協議、決定した事項等については、保護者、住民の皆さんに対して、定期的に情報発信してまいります。(例：学校統合情報など)

このほか、拠点校の田中小学校及び対象校の神明小学校に関して、平成28年度以降の校名をどうするかも含めて、新しい学校づくりに向けた、より良い形を検討してまいります。

## 6. 統合に向けたスケジュールのイメージ (案)

統合に向けたスケジュールのイメージを示していますが、細かな工程等につきましては、委員会を中心に協議、検討しながら詳細を詰めてまいります。

統合に向けたスケジュールのイメージ(案)



## 7. 将来の教育環境を見据えた考え方

県の推計によりますと、現在からおよそ20年後の平成47年(2035年)には、県内の児童生徒数が現在の約6割まで減少すると見込まれており、将来を見据えた上で、学校規模が縮小することによる様々な課題が生じることの全市的な対応については、岡谷小学校のあり方検討委員会の中でも、今後の重要な課題とされました。

今回の岡谷小学校の対応は、地盤状態に起因する特別の事情により、児童の安全な教育環境を確保するために取り組むものであります。

その上に立ち、市及び市教育委員会としましては、将来を見据えた岡谷市に相応しい小中一貫校や小中連携のあり方などを含め、未来を担う子どもたちのより良い学校教育の新しい形づくりに向けて、本計画による取り組みを活かしてまいります。

## 8. 計画策定に至るまでの諸経過等（参考資料）

### （1）岡谷小学校のあゆみ

岡谷小学校は、市内小学校の中でも、最も古い歴史を有する学校のひとつとして、明治6年4月の開校から140年余の永い歴史を持つ学校であり、多くの卒業生を輩出してまいりました。

明治42年には現在地に校舎が建てられ、昭和34年には、現在の岡谷郵便局にあった下校と現在地の山校が合併した岡谷小学校となり、「あかしの丘」と呼ばれる恵まれた自然環境の中で、あかしあ窯やあかしの丘マラソンなどの独自の伝統や校風を築いてまいりました。平成26年5月現在、259名の児童が学んでいます。

また、時代とともに施設整備が進み、現在の校舎や校地環境が築かれてきました。

岡谷小学校建築年表等

年月	(西暦)	内容・建築物等	土工事
明治6年4月	(1873)	開校	
明治42年4月	(1909)	第1棟(南校舎)・体育館新築	校舎、校庭造成
大正5年	(1916)	第1棟(南校舎)東側増築	
大正6年	(1917)	第2棟新築	一部切土
昭和8年	(1933)	北体育館(現管理教室棟東)	盛土部に建築
昭和32年	(1957)	第3棟(北校舎)	北裏山を切土
昭和34年	(1959)	下校山校の合併	
昭和39年12月	(1964)	南体育館	体育館西裏山を切土
昭和43年4月	(1968)	第1棟(南校舎)改築	
昭和51年	(1976)	管理教室棟新築	

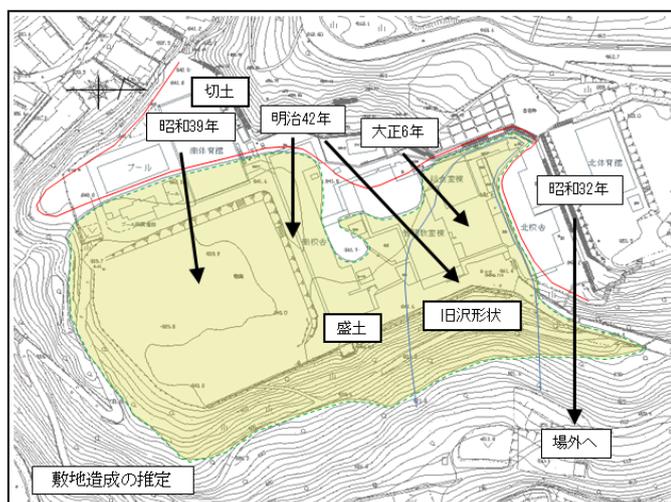
### （2）耐震改修への対応経過と学校敷地の現状

岡谷市は、児童の安全な教育環境を確保するため、「学校施設耐震改修計画」に基づき、国の方針である平成27年度末までの耐震化完了をめざして、市内学校施設の耐震改修を進めております。

岡谷小学校についても、耐震改修が必要な校舎の耐震化に向けた対応を進めておりましたが、平成18年7月に有史以来の甚大な被害を被った豪雨災害を経験するなど、全県下で土砂災害への備えが強化され、平成21年度までに市内全域の土石流及び急傾斜地の警戒区域と特別警戒区域が指定されました。急峻な立地にある岡谷小学校周辺も急傾斜地の特別警戒区域に指定され、この指定を踏まえて施設改修の設計が必要になりました。

一方で、平成21年頃から校舎建物や敷地の地表面に他の学校には見られない、建物の亀裂や地盤の沈下などの特異な変状が顕著となり、平成23年度から2ヵ年に亘り、耐震改修の設計を進めるための地質調査（ボーリング調査）を実施してまいりました。

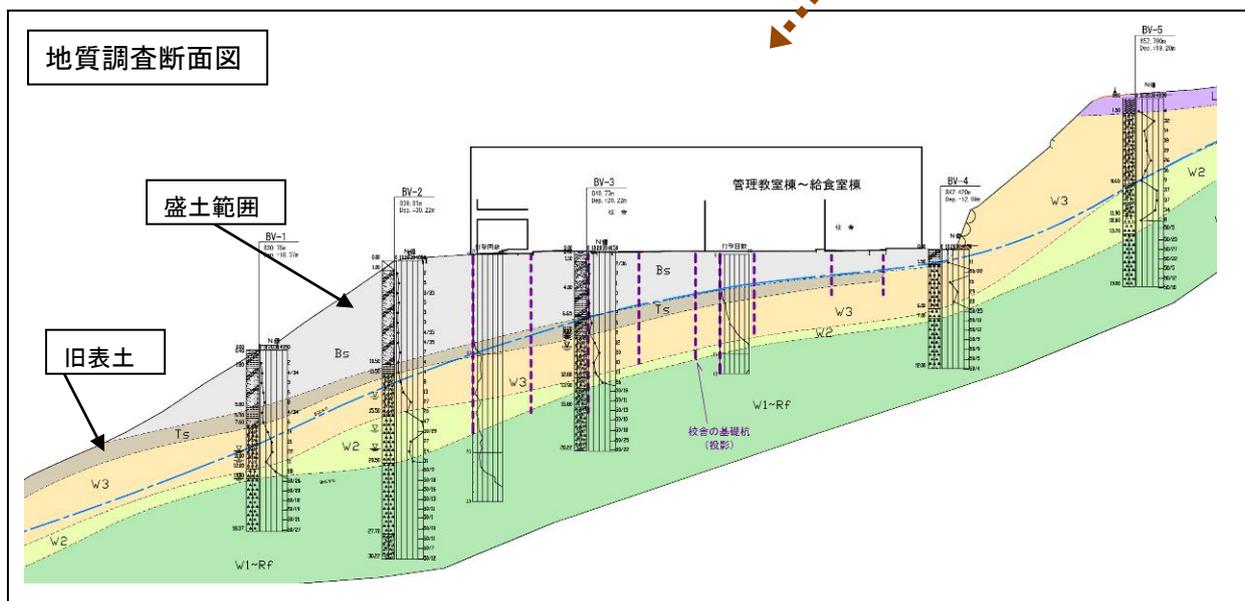
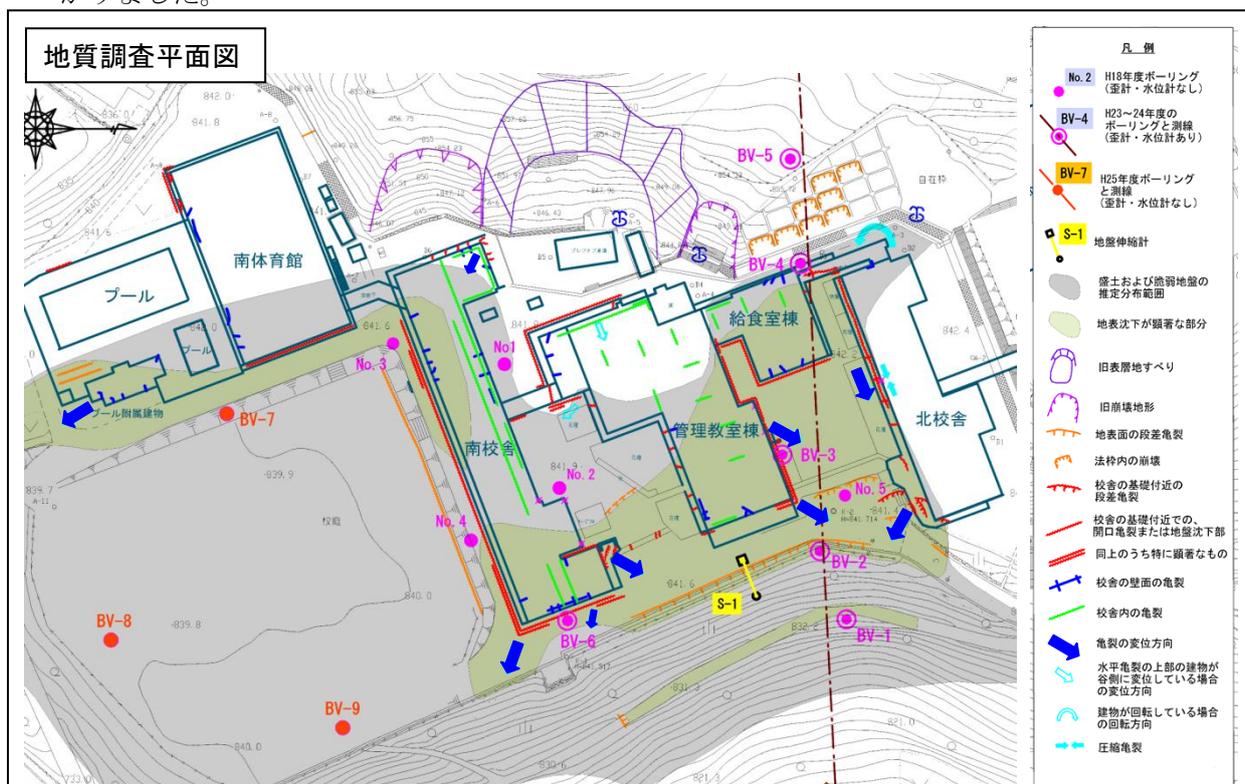
その結果、岡谷小学校の敷地の地盤が厚い盛土で造成された、非常に軟弱な地盤であることが判明し、建物の亀裂や地盤の沈下は、敷地の谷側に向かって動いている側方変位であることが確認されました。



### (3) 地質調査結果の概要

岡谷小学校で実施した地質調査の結果、現在の敷地は、地山と言われる旧表土の上に、盛土により、厚いところで約10mの高さの造成がされており、盛土部分の土の硬さを示すN値が0から5以下と非常に軟弱な地盤状態であることが判明しました。また、校舎や敷地に見られた変状も軟弱地盤が主因とされております。(平成25年3月公表の内容)

なお、現在の敷地の危険性に関しては、地質調査に合わせて設置した、地盤の歪計と伸縮計の観測結果から、敷地と学校施設及び切土法面の変状の進行は、極めて緩慢であり、緊急性はないと考えられていますが、中長期的かつ断続的に変状が進行していることが分かりました。



#### (4) 児童の安全確保のための市及び市教育委員会の判断

岡谷小学校の地質調査の結果を受け、市及び市教育委員会では、複数の識者からも見解等伺う中で、対応策を検討してまいりました。

しかしながら、現在の敷地に対して、考えられる対策を講じても、将来、予見される災害等の危険性を払拭できないため、平成25年3月に市及び市教育委員会としては、児童の安全、安心を最優先に考え、現在地は将来に亘って学校敷地として適さないと判断し、市議会全員協議会に報告を行いました。

このことは、地域とともに歴史を築いてきた岡谷小学校の歴代の卒業生、現在、通っている児童や保護者の皆さん、地元の皆さんの岡谷小学校に対する深い愛着と大切な学校という思いを十分に承知した上での苦渋の判断でありました。

##### <平成25年3月の市及び市教育委員会の判断>

児童の安全を第一に考え、

「将来に亘って学校敷地とすることは適さないこと」

「国の方針である学校施設の耐震化完了期限の平成27年度末をもって、耐震化が済まない学校に児童を通わせることは、学校設置者の責任としてできないこと」

市議会全員協議会への報告とともに、地元関係区、岡谷小学校及び関係保育園の保護者などへの説明会を開催し、地質調査の結果などの説明を行ってまいりました。

#### (5) 岡谷小学校のあり方検討委員会による検討

「岡谷小学校のあり方検討委員会」は、今後のあり方を検討するため、教育委員会から委嘱した学校保護者、未就学児童の保護者、区の代表、識見者による総勢19名の委員で組織し、平成25年5月27日に第1回の委員会を開催しました。

八幡義雄委員長のもと、「岡谷小学校のあり方に関する提言書」をまとめていただくまで、全13回の委員会を開催し、大変、密度の濃い検討を行っていただきました。

また、岡谷小学校の現地確認も行いながら、敷地が置かれている状況の理解等を深めるとともに、学校の移転、統合・分散、現地存続に関して、少ない時間の中で効率的に検討を行うために、第6回委員会から分科会に分かれて検討を進めていただきました。

#### (6) 岡谷小学校のあり方に関する提言書

<提言書の受領>

平成26年6月26日に「岡谷小学校のあり方検討委員会」から岡谷小学校のあり方に関する提言書を受領しました。本文は資料集(13頁～)のとおりです。

あり方検討委員会から提言いただいた内容は、市及び市教育委員会としての今後の方向付けにあたり、土台となり、骨組みとなる大変重要な内容となりました。

＜あり方検討委員会で提案された移転及び現地存続の各案に対する見解＞

検討委員会では、3つの分科会による検討の過程で、現地存続に関する工法、移転先の候補地に関する具体的な検討を行っていただきました。

現地存続に関しては、地盤改良と抑止杭による対策工法として、市が検討したA案の他、A案の一部を実施するB案、軟弱盛土を切り下げ、法面安全対策を実施するC案(改訂版)、敷地北側の土地を活用するD案が提案され、移転に関しては、同じ通学区内のまとまった更地から、中央町駐車場と駅南用地に成田公園を加えた3箇所の候補地に関する検討をいただきました。

特に現地存続に対する強い思いがあることを十分に理解した上で、検討された各案に対する市及び市教育委員会の考えとしては、国から示されている小学校施設整備指針との適合性に課題があること、また、工法としての実現性や経済性、児童に対する負担なども含めた総合的見地から、いずれの案も実現可能な方法として選択することはできないと結論付けております。

市及び市教育委員会としましては、これらの考え方を踏まえた上で、岡谷小学校のあり方検討委員会による提言書を尊重しつつ、岡谷小学校の対応に関して、児童の安全な教育環境を確保することを最優先に考え、今後の魅力ある新たな学校づくりをめざして計画を策定することといたしました。

## 9. 岡谷小学校敷地の安全対策に関する基本的な方針

この度の岡谷小学校敷地に係る対応は、児童の安全な教育環境を確保するための取り組みであるとともに、災害を未然に防ぎ、周辺地域に危険が及ばないよう対策を講じること  
も重要な課題となります。

こうした中で、現在の岡谷小学校の敷地及び周辺地域におきましては、現状で把握して  
いる地形的・地質的な特性を踏まえた災害のリスクとして、斜面の崩れや滑りの危険性が  
想定されるほか、大規模な地震時においては、学校敷地の盛土が変動するなどの可能性も  
想定されるところです。

これらを含めて、今後、安全対策を具体化していくために、まずは、想定される事象に  
対する更に詳細な解析と検証を、間を置かず行ってまいります。

その上で対策工事等の内容を詰め、計画的かつ着実に対策を進めることで、地域の安全  
を確保してまいります。

## 10. 岡谷小学校のあり方に関する提言書（本文）

平成26年6月26日

### 岡谷小学校のあり方に関する提言書

岡谷市教育委員会  
教育委員長 草間 吉幸 殿

岡谷小学校のあり方検討委員会  
委員長 八幡 義雄



岡谷小学校のあり方検討委員会は、平成25年5月27日に発足して以来、児童の安全安心を守るための岡谷小学校の今後のあり方に関する検討を重ねてまいりました。本委員会として、次のとおり提言いたします。

平成26年6月26日

## 岡谷小学校のあり方に関する提言

### 【経過と背景】

平成25年3月の市及び市教育委員会による岡谷小学校の敷地に関する地質調査の結果の公表を受けて、本委員会は、同年5月に市教育委員会からの委嘱を受け、今後の岡谷小学校のあり方について、現地確認を含む全13回の会議により検討を重ねてまいりました。

もとより、開校以来、140年の歴史を有する岡谷小学校は、豊かな自然に囲まれて学んでいる児童はもちろん、歴代の卒業生や地元の皆さんにとって、深い愛着と誇りのある大切な学校であります。

一方、今、日本は、未曾有の被害を受けた東日本大震災を経験した国として、災害に強い国土づくりが進められています。特に学校施設の耐震化は国全体が取り組まなければならない喫緊の課題であり、岡谷市も例外ではありません。

こうした中で、岡谷小学校の校舎、敷地の変状が確認され、市教育委員会が実施した地質調査の結果、軟弱盛土であることが判明し、現状のままでは、耐震化のための校舎の建て替えができないことを、我々は受け止めなければなりません。その上で、何よりも大切なことは、児童が安全に安心して過ごすことのできる学校環境の確保ではないかと考えます。

### 【あり方検討委員会での検討】

本委員会では、このような岡谷小学校の置かれている現状について、現地も視察しながら認識を深めてまいりました。また、第6回会議からは、限られた時間の中で効率的に議論を進めるため、岡谷小学校の現地存続、移転、統合分散による3つの分科会を設け、時間をかけて検討させていただきました。

その中で、まず、現地存続分科会では、事務局から示された地盤改良と抑止杭による対策工法をA案とし、検討の中で、A案を一部だけ実施するB案、軟弱盛土を切り下げて法面の安全対策も実施するC案、敷地北側の土地を活用するD案が提案されました。

移転分科会では、移転先を同じ通学区内の公有地のまとまった更地により、中央町駐車場と駅南用地に成田公園を加えた3箇所を候補地として検討し、移転を前提にした場合の跡地の活用についても議論が深められました。

統合分散分科会では、岡谷小学校の置かれている状況や統合分散を前提にした場合の問題点などを洗い出し、児童数や通学距離などの想定を踏まえた魅力ある新たな学校づくりの視点により、統合分散を進めるために必要となる支援や工程などを検討してまいりました。

#### 【提言の骨子】

この中で、現地存続や移転の検証にあたっては、児童が日々学び、過ごす教育環境としての適正、小学校施設整備指針への適合のほか、土木、建築分野に関わる高い専門性が必要であり、更には、地域の安全、防災対策に関する視点、地域づくりやまちづくり全体から見た視点など、総合的見地から考える必要があります。

また、これらの視点を含めて、現地存続及び移転分科会から出された対策工法や整備手法としての各案の検証に関して、いずれの案も課題があり現実的には困難という意見が多くを占めたところではありますが、現地存続を望まれる強い思いがある中で、分科会による検討案から、本委員会として最良の案をひとつに選択することはできないと判断しました。

少なくとも、耐震化が完了しないままでは、いつ起こるかもしれない災害等の危険性を存置することにほかならず、現在の校舎を使い続けるべきではないということを、多くの委員が認識しているところです。

#### 【提言】

この考え方を前提にすれば、現地存続や移転の各案に関しては、大規模な工事の終了までに何年もかかること、事業の困難さ、莫大な事業費のほか、長期間、他校で過ごし再び移ることの負担など、とても現実的とはいえないとの意見が多くを占め、子どもの安全と学びを保障するためには、現在の岡谷小学校から最寄りの小学校へと統合分散を図っていくことが、やむを得ない選択ではないかと考えます。

その場合、最も大切にしたいことは、児童や保護者、関係者への十分な配慮であります。今までの環境が変わることに対する様々な不安や心配、準備期間の短さなどから、統合分散の難しさを指摘する意見もありました。

しかし、今回の岡谷小学校の対応は、児童の安全確保を最優先にしたものである以上、限られた時間の中でも、早期に当事者を交えた準備委員会を設けるなど、可能な限りの準備と対応を進め、円滑かつ確実に実施していく必要があります。残された時間に決して余裕はありません。

次に、岡谷小学校の敷地が学校としては残せなくなるにしても、周辺地域に危険が及ばないよう、敷地に対する安全対策を講じる必要があります。

また、岡谷小学校の歴史を伝承し、自然学習できる場所として整備するなど、安全対策をした上で、市内全小学校の児童が利用できる学びの場、地域住民の誇りとなるような憩いの場として、敷地の活用を図っていただきたいと思います。

約1年をかけたこの委員会としての検討は、本提言により締めさせていただきますが、岡谷小学校のあり方に関しては、学校設置者である市及び市教育委員会として、責任ある決断をお願いいたします。

そのためにも、この会議での検討内容や資料、委員から出された貴重な意見などは、十分に活かしていただける内容であり、委員それぞれの思いをしっかりと受け止め、今後活かしていただきたいと思います。

先人たちが築いてきた岡谷小学校の文化や歴史、伝統は、このまちの大切な財産と言えます。どのような形になろうとも、しっかりと継承していくための施策を実行していただき、次の時代を見据えた魅力ある学校づくりを進め、未来を担う子どもたちの教育の質を高めて欲しいと願います。

また、学校は地域とともにあります。これからの学校づくりには、市民や保護者の声を反映しながら進めることが大切です。今回の岡谷小学校の対応は、地域や保護者など関係者に大きな心配と不安をかけてきました。今後は、地域と一緒に取り組むことで、子ども達が郷土を愛する心を育む学校づくりをめざしていただきたいと思います。

最後に、少子化、人口減少社会が進展する中で、将来の児童数を見据えた市内全体の学校の適正な配置を見直す時期が来ています。

今後の岡谷小学校の対応を、次の時代を見据えた、学校教育の新しいかたちづくりのモデルとなるよう、市内学校施設の適正な配置や通学区の見直しの契機にして欲しいと思います。

以上、「岡谷小学校のあり方検討委員会」としての提言といたします。

岡谷小学校のあり方検討委員会 委員名簿

	区 分	氏 名	備 考
1	学校保護者	原 豪 志	岡谷小学校PTA会長（25年度）
2		林 裕 一	岡谷小学校PTA副会長（25年度）
3		宮 崎 勇	〃
4		三村田 卓	〃
5		藤森 眞由美	〃
6	区代表	林 幸 三	岡谷区長
7		小林 啓助	間下区長
8		薩摩林 忠美	新屋敷区長
9	保育園等保護者	杳掛 貴芳	聖ヨゼフ保育園保護者代表
10		田中 沙里	瑞穂幼稚園保護者代表
11	識見者	濱 一 平	会社役員
12		武 居 崇	会社員
13		原 史 郎	会社役員
14		八幡 義雄	県下水道公社中信管理事務所長
15		原 山 智	信州大学理学部教授
16		森本 健一	信州豊南短期大学学長
17		荒深 重徳	県生涯学習推進センター所長
18		古本 吉倫	長野工業高等専門学校教授
19	教育委員会	岩下 貞保	教育長

「岡谷小学校のあり方検討委員会」検討経過  
(H25. 5. 27～H26. 6. 26)

回数	年月日・出席者数	検討事項等		
第1回	H25. 5. 27(月) 出席：18名	<ul style="list-style-type: none"> <li>岡谷市教育委員長から委嘱書の交付</li> <li>委員長の互選、副委員長の指名</li> <li>地質調査結果について</li> </ul>		
第2回	H25. 6. 8(土) 出席：17名	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校敷地、校舎の現状について（現地視察）</li> <li>土砂法、急傾斜地法について</li> </ul>		
第3回	H25. 6. 26(水) 出席：17名	<ul style="list-style-type: none"> <li>追加ボーリング調査について</li> <li>対策工法の説明</li> </ul>		
第4回	H25. 7. 30(火) 出席：17名	<ul style="list-style-type: none"> <li>追加ボーリング調査結果について</li> </ul>		
第5回	H25. 10. 28(月) 出席：16名	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者・住民説明会報告、PTAアンケートについて</li> <li>今後の進め方について（3分科会による検討へ）</li> </ul>		
第6回	H25. 11. 29(金) 出席：18名	分科会による検討及び全体会議への報告（～第9回会議まで）		
		<b>【現地存続分科会】</b>	<b>【移転分科会】</b>	<b>【統合・分散分科会】</b>
		・課題等の整理	・課題等の整理	・課題等の整理
第7回	H25. 12. 20(金) 出席：15名	<ul style="list-style-type: none"> <li>市財政状況の把握</li> <li>対策工法の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来児童数の推定</li> <li>メリット、デメリットの検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新たな学校づくりに向けた議論</li> <li>通学路の安全安心</li> </ul>
第8回	H26. 1. 31(金) 出席：18名	<ul style="list-style-type: none"> <li>市対策工法の検討</li> <li>別工法の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>移転候補地の検討</li> <li>既存公共施設活用の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>通学距離の検証</li> <li>統合に向けた支援体制などの検討</li> </ul>
第9回	H26. 2. 28(金) 出席：17名	<ul style="list-style-type: none"> <li>市対策工法に2案を加えた検討</li> <li>岡谷区からの提案</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国の小学校施設整備指針を踏まえた検討と評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の環境変化に対するケアの検討</li> <li>統合分散のための体制づくりの検討</li> </ul>
第10回	H26. 4. 18(金) 出席：15名	<ul style="list-style-type: none"> <li>現地存続、移転、統合・分散の各分科会からの報告</li> </ul>		
第11回	H26. 5. 16(金) 出席：15名	<ul style="list-style-type: none"> <li>各分科会の報告に対する意見交換</li> <li>委員意見を把握するため用紙に記入の上、後日提出となる</li> </ul>		
第12回	H26. 6. 4(水) 出席：14名	<ul style="list-style-type: none"> <li>提出された委員意見の報告、まとめに向けた意見交換</li> <li>提言書（素案）の調整</li> </ul>		
第13回	H26. 6. 20(金) 出席：12名	<ul style="list-style-type: none"> <li>委員意見のまとめ</li> <li>提言書（案）の調整</li> </ul>		
	H26. 6. 26(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>市教育委員会への提言</li> </ul>		